

◆仲間と協力して取り組もう（ハンドベースボール）

1 対象児童生徒（対象学級）の実態

I 類型の体育の授業は全学年で構成されており、男子 21 名、女子 16 名、計 37 名の集団である。教師の指示や課題に一生懸命応えようと意欲的に授業に参加する姿が多く見られる。

2 指導目標（児童生徒同士の間関係の形成やコミュニケーションの促進に係る目標）

ルールやマナーを守り、安全に留意し、仲間と協力して練習やゲームをすることができる。

（関心・意欲・態度）

ハンドベースボールの基本的技能を身につけ、野球の基礎的知識を身につける。（技能・知識・理解）

ハンドベースボールの攻防の楽しさを味わう。（思考・判断）

3 取組の中心となる教科・領域等

球技「ハンドベースボール（ベースボール型）」

4 使用したアプリ、周辺機器

タブレット型端末、エクセル（スコアシート）、入力補助アプリ

5 指導の経過及び児童生徒の変容

タブレット型端末の使い方に慣れ、操作に時間がかかることが少なくなった。特に打順や守備選択はプリントに手書きするよりも時間短縮となり、文字を書くことが困難な生徒においても使うことができ、チーム内で協力しながら選択や文字を入力する様子が見られた。



チームで打順を考えている様子



手書きで入力している様子

6 指導のポイント（変容の要因、効果的な支援方法等）

エクセルシートの作成と手書き入力アプリの導入

・エクセルのシートで打順、守備、評価を入力するのではなく、選択できるように作成したため、誰もが使えるようになった。評価については、顔文字（(◡_◡) ナイス!!(T_T)）を選択できるようにしたことによって称賛されるプレイを心がけるようになった。

・例え、使い方に困ったり、入力ミスをしたとしても教師のアドバイスは必要とせず、チームメイト同士が助け合いながら選択したり、入力したりすることができていた。

・手書きキーボードのアプリはひらがなで書いても漢字変換を選ぶことができるため、生徒は漢字を意識せずに安心して書くことができていた。